

平成27年（行ウ）第4号

石木ダム事業認定処分取消請求事件

原告 岩下和雄外108名

被告 国

意見陳述書

平成30年3月20日

長崎地方裁判所 御中

原告 岩下 和雄

私は、石木ダムが出来ると水没が予定される地区に住む岩下和雄と申します。半世紀近く前の1970年ころに計画されたダム私達の生活を奪い自然を破壊し、住み慣れた故郷まで犠牲にしても石木ダムは必要なのでしょうか。私はそれを50年近く問い続けてきました。しかし、行政の説明も対応もふらつき続けています。

石木ダムの当初の計画では、佐世保市の水需要の拡大、水不足対策として利水に必要なダムとされていました。しかし、利水のみでは、建設費が受益者である佐世保市民のみの負担となりますので、川棚川の治水も含め負担金を減らすために多目的ダムとして建設することになりました。長崎県からは、「この手法は、全国どこでも同じ方法を使っています。治水は付け足しです。」と説明されました。

1975年、佐世保市は「川棚町議会石木ダム特別委員会」にダムの必要性として、「現在一日96,000 m³の使用量が10年後には1.68倍の161,400 m³になる」と過大な予測をしました。そして、「佐世保市の取水能力は一日111,000 m³しかありません。だから石木ダムが必要です。」と説明しました。しかし、この50年間で佐世保の水需要は生活様式の変化や人口減少、工業団地計画がなくなるなどによって大幅に減少し、現在では一日最大80,000 m³を切っています。当初の予測である161,400 m³から見れば、80,000 m³以上も予測はずれています。今後も人口減少、節水機器普及などで佐世保の水需要は益々減少することは確実です。

しかし、長崎県や佐世保市は、慢性的な佐世保市の水不足解消には石木ダム建設が絶対不可欠とまだ言い続けています。

佐世保市の棧市長が退任するとき、私は市長に呼ばれてお会いしました。そのとき市長は、

佐世保市は石木ダム以外に独自に取水計画を立てていたが、石木ダム建設に影響するから何もするなと県から反対され何もできなかった。あの時推し進めていたら今回のような大事にはならなかっただろうと、非常に残念でなりません。これからも頑張って反対してください。

と逆に励まされました。

1995年3月31日の朝日新聞では、佐世保市が石木ダム以外の独自の取水計画を進めていたことについて、長崎県が反対していたことが明らかにされました。記事の中で、棧市長は、

ダム以外に水源が確保されると、石木ダム不要論につながる。長崎県が取水計画に反対したのは、そう懸念した建設省の意向を反映したのではないか。

と述べられていました。

佐世保市は、水需要予測が過大に見積もられている、技術が進歩した今、他に方法があるはずといった私たちの追及によって、2004年、ようやく取水計画の見直しを行いました。それでもダム建設を前提にするものでした。石木ダムからの取水量を一日60,000 m³から40,000 m³に減らしただけです。

その根拠は、一日の取水能力111,000 m³を、このときはじめて安定水源と不安定水源に分け、安定水源の77,000 m³だけを取水可能な水源とごまかし、ダム完成年度の需要である117,000 m³に40,000 m³足りない。その40,000 m³は石木ダムで補うと、完全な子供だましの数字合わせを行ったのです。

1982年、機動隊を導入して強制測量を行う前日、当時の県知事高田勇氏と面談した際、私達が「ダムの必要性について話し合いを続けよ。他に方法がないか話し合いを続けよ。」と要請したのに対し、知事は「長崎県

にも優秀な職員がいます。信用してください！」と述べ話し合いを拒否し、翌日、機動隊を投入して強制測量に踏み切ったのです。

確かに県、市職員は優秀なのでしょう。しかし、この裁判で明らかになったように、その優秀さは、治水でも利水でも、都合のいい数字合わせや誤魔化しにしか使われていません。私たち川原のみんなが、先祖代々の生活を営み、ダム建設によって生活、ふるさと、人生、思い出がダムの底に沈められることに思いを馳せることには使われていないのです。

2014年7月、こうばる公民館で行われた説明会の場で、佐世保市の朝長市長が「佐世保市民の豊かな生活の為、有り余る水を確保する必要があります。だから石木ダムは必要不可欠なのです。」と発言されました。

この発言は、「佐世保市民の豊かな生活の為に、私達には犠牲になれ！」と恫喝したのと同じです。私達の気持ちを逆なでし、傲慢な態度でダム建設を推し進めようとする態度です。このような人が人の上に立っていいのでしょうか。決して許されません。

長崎県は、「地権者と話合いの場を持つ為」と事業認定申請を行いました。事業認定申請によって、何の話合いができるのでしょうか。強制収用によって、無理やりに家を奪い、先祖代々守ってきた土地を取り上げると脅していると思えません。

しかし、私達の結束は固い。全国からも応援の声が集まっています。

私たちは、このような圧力、脅しに絶対に屈することはありません。

長崎県や佐世保市が本当に石木ダムを必要とするなら、「意見の相違」と話合いを拒否するのではなく、私達と真摯に向かい合い、私達の理解が得られるよう、とことん説明し、同意が得られるよう努力するべきです。

そして説明ができず、私達の同意が得られなければ、ダム建設の必要性について見直しを行い、ダム建設中止という当たり前の決断をすべきです。過去の計画にとらわれず、新たな道を探ることこそが、真の優秀さではないのでしょうか。

私は、今月23日で71歳になります。石木ダム建設計画が持ち上がってから50年あまり、人生の大半をダム問題に翻弄されてまいりました。私

達の生活は決して裕福とは言えませんが、自然豊かな隣人愛あふれる他に類を見ない豊かな故郷なのです。

私は、老後は家庭菜園・旅行や孫の世話等あれもしたい、これもやりたいと楽しい夢を見てまいりました。しかし今では、孫が遊びに来たいと連絡してきても連日の抗議行動で遊んでやる事すらできません。

ここ数年、夫婦の会話にダムの話が出なかった日はありません。夜も県職員の夜討ちが気になり、寝付かれない日か続き、夢の中で大声を上げ飛び起きることも度々あります。これは私だけの事ではありません。川原地区の皆さんが同じように悩み、苦しんで命を削っています。

私達はいつまでダム問題に翻弄され苦しみ続けなければならないのでしょうか。老い先短い人生です。一日も早くダム問題から解放され、楽しい老後を過ごせる生活を取り戻したい。

裁判所にはダムは必要ないとのこと判断をお願いしたいと思います。

以上